平成 24 年度　事務事業事後評価調書（平成　23　年度事業）

整理番号	9	ー	1

1　事務事業の表示

※ ■ ： 該当

事務事業名	道営かんがい排水事業（国営附帯）雄武中央地区					
評価者	担当課名		産業振興課	担当係名		農務係
	管理職	職名	課 長	作成者	職名	技 師
		氏名	石 井 弘 道		氏名	辻 栄 浩 二

事業の概要	当地区は、牧草を期間作物とする酪農専業地帯であり、保水性に乏しい重粘性土壌が広く分布した無水地帯である。また、かんがい期間中の降水量も少なく干ばつ被害が頻発し、営農を阻害している。このことから、畑かん施設の導入により、粗飼料の高位安定及び品質の向上を図るとともに、営農労力を節減し粗飼料生産の向上により酪農経営の安定を図る。	全体計画 /期間限定複数年度 （平成 20 年度～ 24 年度）	
		事業費 国・道支出金	8,000 千円
		地方債	68,200 千円
		その他	77,720 千円
		一般財源	125,935 千円
		事業費計	279,855 千円

実施方法	□	直 営	□	民間委託	■	その他 （ 道営 ）
第５期 総合計画（前期）	■	登載事業	□	非登載事業	優先度	A

事業の位置付け	政策目標	1	はつらつ・雄武～地域産業の振興～
	基本施策	1	農業の振興
	単位施策	1	土地基盤の充実
	事務事業の種類	■ 自治事務	□ 法定受託事務
	その他計画・根拠等		

事業費	実施年度	20年度（実績）	21年度（実績）	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)
	国・道支出金	千円	千円	千円	16,700 千円	千円
	地方債	4,200 千円	12,500 千円	7,400 千円	16,600 千円	11,250 千円
	その他財源	4,240 千円	21,080 千円	8,470 千円	千円	11,200 千円
	雄武町負担額（一般財源）	6,831 千円	42,326 千円	15,000 千円	26,830 千円	18,050 千円
	合計	15,271 千円	75,906 千円	30,870 千円	60,130 千円	40,500 千円

2　事務事業の目的・内容（Plan・Do）

【誰、何が（対象）】	道営かんがい排水事業受益者	望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標） 管路整備延長		
【抱える課題やニーズは】	干ばつによる営農への影響	指標（指標計算式／解説）	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか（意図）】	畑かん施設の導入による粗飼料の高位安定及び品質の向上	① L＝33.53km/全体整備延長	目標年度	平成23年度
			目 標 値	33.530 km
			実 績 値	20.175 km
			達 成 度	60.2 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果＝目的	粗飼料生産を拡大し、酪農経営の安定を図る。	②	目標年度	
			目 標 値	
			実 績 値	
			達 成 度	%

内　容（どのような手段で何を行ったか）	
管路整備	平成22年度末　L＝11.815km 平成23年度末　L＝20.175km
	（施工実績） 平成23年度一般　L＝4.867km 平成22年度繰越　L＝3.493km

3 事務事業の評価（Check）

（1）事務事業の必要性（町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

必要 必要／概ね必要／課題あり	□義務的なもの □全部 □一部	国営事業の関連事業として位置付けられた事業であり、末端の畑かん施設を整備することにより、粗飼料の高位安定及び品質の向上を図るため、必要な事業である。

(2)事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

有効 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況 □達成 □ほぼ達成 ■下回る	粗飼料生産の向上により、酪農経営の安定を目指すうえで有効であるが、道の予算の関係により計画を下回っている状況である。

(3)事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由 ■事業費抑制 □人員削減 □時間短縮・作業軽減 □その他	事業主体については北海道であり、事業を進めるにあたり都度協議を行い、測量試験費の軽減を図るなど、事業費抑制策を講じている。

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由 □受益者負担がある ■受益者負担がない □受益が一部に偏る □その他	末端の畑地かんがい施設利用者から利用料を徴収するものであり、公平であると判断する。

4 総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当　等
B：ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要　等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要　等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要　等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A		
国の予算の関係から若干遅れが見られるが、畑かん施設を導入し粗飼料の高位安定等を図る事業であることから、計画のとおり事業を進めることが適当と判断する。		

今後の展開方向
（Action）

継続／現状維持		
営農労力の軽減、粗飼料生産の向上により、酪農経営の安定化が図られるので、引き続き最優先して実施すべき事業であり、当分は現状維持が適当である。		

＊展開方向の区分
○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更　○ 終了　○ 休止　○ 廃止

5 その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）